

学会ニュース

2014年 第1号

甲南大学経済学会

〈新任筒井先生へインタビュー〉



甲南大学に初めていらっしゃったのは阪神大震災後だとお聞きしましたが、1か月ほど甲南大学で働いてみて大学や学生にどのような印象を持ったか教えてください。

どこの大学でもいえることなのですが、どちらかというといろいろな学生が居るなと思いました。ゼミなどをしているとまじめで積極的な学生と早く授業が終わらないかなと考えているような学生が結構別れているという感じがしますね。普通の授業でも一生懸命取り組んでいる学生としょうがないか

ら来ているという学生が両方居るという感じがします。全体の印象としては、優しくて礼儀正しい学生が多いという感じです。

ご出身はどちらでしょうか。また、出身大学の東京教育大学や大阪市立大学ではどのような勉強をされてきましたか。

東京教育大学では物理学をしていました。物理学は難しくて数学のレベルや先生からの要求も高くて分かっている学生もほとんどいないという状況で、とても苦労しました。大阪市立大学では高校の先生をしつつ夜間に通っていました。こちらは経済学を学んでいました。だから普通の学生ではなく社会人学生でした。まわりも大体そんな感じで、友人になった人も昼間はいろいろ働いていました。やはり、昼間働いて夜間勉強をしに来るというのはちょっと難しかったですね。夜間はだいたい18時に始まって21時に終わっていました。しかし社会人で学びに来ている人のモチベーションは高かったです。

筒井先生の研究テーマはいろいろあるよう

ですが、どれを主にすすめているのでしょうか。

今大きく分けると、行動経済学と幸福の経済学と金融をしています。ここ数年は特に幸福の経済学に力を入れています。幸福の経済学では、幸福という概念というのは主観的で、それが経済学の中で実際にどのように使えるかどうか、使ったらどのようなメリットがあるかというのを探していきます。

その研究テーマに興味を持ったきっかけを教えてください。

幸福の経済学をしようと思ったきっかけというものはあまり思い出せません。行動経済学をしようと思ったきっかけはあるのですが、やはり偶然ですね。ある研究をやっているその研究を実証しようとしたときアンケートが必要になったのですが、その当時ではまだ経済学者がアンケートを使うという事が少数でした。そういった調査をするのが行動経済学をしている人たちで、その方たちと会うことで行動経済学というのを知りました。だいたい知人を通して知る、そして

一緒にする、という事が多かったです。

現在研究されているテーマのほかに研究したいテーマはありますか。

今もしているのですが、結婚と出産の幸福度についてですね。結婚、出産などカップルがどういう状況において幸せだったりそうではなかったり、という事を調べています。結婚にしても出産にしてもそれらを促進する要素はなにか、パートナーとの関係とかがどんなものだったらうまくいくか、とかを調べてみると面白いです。

アンケートで調べてみると結婚前後や出産前後の幸福度の変化の仕方が国によって変わるのでその研究もしたいです。

学生時代の勉強以外の思い出はありますか。授業についていくのに毎日勉強に明け暮れていたとお聞きしましたが具体的にはどのような様子でしたか。

僕たちのころは学生運動やストライキなどがあつたりすごい時代でした。なので勉強以外の思い出と言えばやはり学生運動をした

ことですね。

甲南大学でゼミを持たれると思うのですが、理想とするゼミの形などはありますか。また、ゼミをするにあたってどのような学生に来てほしいというものはありますか。

ゼミのような少人数の授業では、自分で作業することが重要です。こちらから教えるのではなく自分で考えて欲しい、だから自分で目標を持てるような学生に来てほしいと思います。ゼミでは行動経済について、2回生時はまず知識をつけ、3回生時はその身に着けた知識をいかして自分の進めたいテーマを決めて学習を進めて欲しいです。

授業のやり方でこうしようと考えていることや、こだわっていることはありますか。

書くときはできるだけ見えるように、しゃべり方はできるだけ明瞭にすることで話している内容が伝わりにくくならないように気を付けています。あとは、どんな人でもどの部分が要点であるのか伝わるように心がけ

ています。

お休みの日は何をされていますか。

あまりたいしたことはしていないのですが、休日はジムに行ったりします。その他には時々ハイキングをしたり、体を動かすことは昔から好きです。音楽も好きなのでよく聞きます。

最後に甲南大学で学生たちに経済学を教えるにあたって、学生たちに頑張ってほしいことなどのメッセージや意気込みをお願いします。

若い時は、なんでもできるし、やり直しもできる。なので、いつも自分が若い事を意識して目標を失わずに何回でもトライしてほしいです。

新任足立先生へインタビュー〈



甲南大学で1か月ほど働いてみて大学や学生にどのような印象を持ったか教えてください。

住宅地の中にある落ち着いた雰囲気のある大学という印象です。学生の印象は、全体的におとなしい印象です。だけど実際に取り組んでもらうと結構積極的だと思いました。学年があがるほど少しくだけた感じがしますが、授業は思っていたより静かにまじめに話を聞いてくれます。

ご出身はどちらでしょうか。また、出身大学の大阪大学ではどのような勉強をされましたか。

東京出身です。大阪大学の修士課程では、大学で働きながら国際公共政策学を、博士課程では保健所で勤務しながら医学を勉強していました。

足立先生は以前医学について勉強されていたようですが、経済と医学のつながりはどのようなところに感じられるでしょうか。

最初は、医療と経済は、相容れないように感じました。今はだいぶ変わってきていると思うのですが、私が臨床現場にいたころは、お金でカウントする意識がまだ低かったです。そのころ、医療政策が流行り始めてきて、配属先も地域医療連携室でしたので、偶然が重なって、国際公共政策研究科の修士に進むようになりました。結果として、経済的な視点で、ある程度医療というものをみるのが性にあってたので、博士課程に進学しました。

足立先生の研究テーマは具体的にどういっ

たものがあるのでしょうか。

社会保障財政が専門です。研究業績に関しては保健・医療・介護についての研究が多いです。ここ数年しているのは、税と社会保険料のシミュレーションや実証分析です。

現在研究されているテーマのほかに研究したいテーマはありますか。

興味好奇心は絶えずいっぱいあるのですが、最近し始めた研究は少子化です。

学生時代の思い出はありますか、勉強はどれくらいしていましたか。

学部時代は、色々なところ行っていました。先生の研究の手伝いで、週末は浅草の隅田川のホームレスのアンケート調査をしたり、長期の休みはフィリピンのミンドロ島に行って、原住民の生活調査をしていましたね。修士時代や博士時代は寝る間を惜しんで勉強三昧で、暇さえあれば研究をしていました。

甲南大学でゼミを持たれると思うのですが、理想とするゼミの形などはありますか。しよ

うか。

学部ゼミについては、勉強も重要ですが、とにかく積極的に参加してほしいですね。そして“社会に通用する力”を身につけて、“一生の仲間”をつくったり、そして“自分力の向上”ですね。これをゼミの3本柱にしたいですね。

授業のやり方でこうしようと考えていることや、こだわっているということはあるか。

授業のやり方、目下、今頭を巡らせている問題ですね。いかにして、学生が興味を持って、眠らずに、授業を楽しんでもらうか、私にとっての大きな課題です。担当科目に地方財政がありますが、財政っていわれると、自分の生活とは関係ない感じがしてしまうかもしれません。でも、実はとっても身近で大きな問題。それを感じてもらうために、ニュースを流したり、新聞記事を読んだり、ディスカッションをしたり。やり方は色々あるので。あれこれ試してみたいですね。こだわりは・・・強いて授業のやり方について言うの

なら、何か一つのやりかたにこだわらないのがこだわりかもしれませんね。なぜなら生徒は多様ですので。

お休みの日は何をされていますか。

平日も休日もぼたぼたと動いていますね。なので、充電が必要！！と感じたら。全部ほっぽりだして(ほっぽりだしてもいい状況であれば・・・)、行きつけのカフェに行って、カプチーノを飲みながら、一息ついています。

最後に甲南大学で学生たちに経済学を教えるにあたって、学生たちに頑張してほしいことなどのメッセージや意気込みをお願いします。

学問は授業でお教えます。ただ、人生の学びは各自でなくてはけません。そのため、みなさんには、一つの大きな目標を作ってほしいです。というのも、大学生活は色々好奇心が擦られることばかり。挑戦はもちろん重要。だけど、その経験が発散してしまう危険もあります。だから、1日の終わりにお風呂の中で、もしくは1週間の終わりの寝る前に、

自分が過ごした時間を振り返って、思いっきり自分をほめてください。そのあとに、もう一度自分が立てた目標を思い出してください。自分がした経験が、その目標にどう活かされるかを考えてほしいです。そして、自分がたてた目標を実現するのに、あと何をすればいいかを考えてほしいです。それが次の日のエネルギー源になると思います。

筒井先生、足立先生ご協力ありがとうございました。